

2021 年度 中東研究

第 1 回研究会

開催日： 2021 年 6 月 7 日（月） 15：00～17：00

開催場所 ZOOM

発表タイトル： 「スィーサー政権の安定性と脆弱性の検証：露中との関係を中心に」

発表者 鈴木恵美 福岡女子大学国際文理学部・准教授

出席者 山内昌之、布施哲史、中川恵、今井宏平、辻上奈美江、保坂修司、宮家邦彦、溝渕正季、高岡豊、吉川恵章、若林啓史、近藤洋平

議事概要：

発表では、エジプトのスィーサー現政権が、2019 年に憲法を改正し、任期も 4 年から 6 年に延長し 2030 年まで続行可能とするなど、大統領に大きな権限を付与したこと、これまでエジプトの三権のなかでは比較的政府を牽制する役割を果たしてきた司法府においても検事総長や再興憲法裁判所長官などの人事、予算の独立の削除等によって大統領の影響力を拡大するなど、大統領権限を強化した点が指摘された。また支配体制の中核にある国軍は、経済的にも大きな力を有しており、メガプロジェクトは国軍系の企業が受注し、その下請けなどの形でエジプト国内に回る仕組みが出来上がっており、外国からの資金が国軍にまず渡るメカニズムになっていることが指摘された。

とりわけロシアと中国との関係強化が顕著で、「非民主主義国家が他地域の非民主主義体制を強化する」図式になっているとの分析があった。その背景には、エジプトとりわけ現在のスィーサー大統領がクーデターによって権力を掌握した際に、アメリカが軍事援助を停止したことや、戦闘機 F-35 売却の拒否、またかつてのムバーラク政権期の米国による軍事援助停止圧力、2011 年 1 月の革命に対するアメリカの好意的な対応などによって、アメリカに不信感を抱いていることがあると分析された。したがって中国により接近しているのは、アメリカと違って中国は人権問題について介入せず、豊富な資金を提供するためである。ロシアは、シリアのタルトゥースからエジプトの地中海沿岸にダブア原発、スィーディー・バッラーニー空軍基地など複数の拠点を置くことは戦略的に重要であり、エジプトは防空ミサイルシステムを初め軍曹備品の購入先としてロシアを重視しており、両国の関係は緊密化している。

エジプトはナイル川上流に巨大なナハダ・ダム建設をすすめるエチオピアと対立している。このダムには中国は多額の投資と技術提供をしており、エジプトとも中国は接近している。エジプトとしてはこの問題に中国を引き入れたくはないが、エチオピアは中国を介入させることで解決を図ろうとしており、今後の推移を見守る必要があることが指摘された。